

## 建築研究開発コンソーシアム 2024年度通常理事会・通常総会

建築研究開発コンソーシアムは、2024年6月18日に学士会館にて2024年度通常理事会・通常総会を主要会員の株主総会の開催形式に準じて開催し、全ての審議議案が承認されました。以下に総会での澤地孝男会長の挨拶と国土交通省住宅局住宅生産課山下英和課長のご挨拶の要旨、並びに、懇親会での澤地孝男会長の挨拶、国土交通省住宅局石坂聡局長のご挨拶、株式会社日本建築住宅センターの井上俊之会長のご挨拶、村上周三特別顧問の挨拶、および笹川淳副会長の挨拶の要旨を掲載いたします。

### 挨拶要旨

#### 建築研究開発コンソーシアム 澤地 孝男 会長



建築研究開発コンソーシアムでは、建築・住宅の質や魅力の向上に向けて、研究開発の活性化を図り、新たな協調・連携体制を整備するために、講演会、見学会、人材育成プログラム、若手技術者交流会、研究会などの活動を実施しています。

昨年は、例年の活動に加え、当コンソーシアム設立20周年を記念した記念誌を発行しました。また、5月に新型コロナウイルス感染症の位置付けが変わってから、コロナの時期に導入されたオンライン活動だけでなく、対面での活動を復活させたことによって、より多くの方にご参加いただくようになりました。

こうした中、当コンソーシアムの新しい動きについて紹介します。

一つは、非住宅建築物の気密性能ガイドライン作成です。コンソで3年間活動してきた「カーボンニュートラルに向けた非住宅系建物気密化のための制度実現化及び普及の提案」研究会が、提案をとりまとめて国交省の補助事業に応募し、採択されたものです。本年度からコンソの中に委員会を作って研究を進めることとしています。

もう一つは、株式会社日本建築住宅センターと連携した社会実装連携・協力事業です。コンソの会員が参加する研究会で新技術等の社会実装に資する研究開発を進める制度をつくりまします。第一号の適用としては、建築基準法改正による木造の規制緩和を生かした試設計を実施します。この夏から参加者を募集し、2か年の計画で事業を進めることとしています。

昨年度の総会では、2012年に策定し、2019年に改定した中期ビジョンのレビューを行うことを提案しました。本会の各事業の実施状況を振り返るとともに、アンケートにより会員の皆様からのご意見を伺った結果を中間報告として、本日は皆様にお配りいたしております。

引き続き、中期ビジョンの見直しを行うこととなりますが、こうした新しい動きをうまく取り込み、コンソの今後の方向性を示していけたらよいと考えています。

今後とも会員の研究開発活動の進展のきっかけとなる活動を進めてまいりたいと考えていますので、今までと変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、建築研究開発コンソーシアムの発展への祈念と、ご出席いただきました皆様方に感謝いたします。私からのご挨拶とさせていただきます。

### ご挨拶要旨

#### 国土交通省 住宅局 住宅生産課 山下 英和 課長



本日は、建築研究開発コンソーシアム通常理事会・通常総会にお招きいただきましてありがとうございます。皆様方には、日頃より、建築行政住宅行政の推進にあたり、ご理解・ご協力を賜っておりますことを厚く御礼を申し上げます。

建築住宅技術に関する研究開発は、安全・安心で質の高い生活の実現、良好な環境の保全創出など、大変重要な社会的役割を担っております。建築研究開発コンソーシアムにおかれましては、平成14年の創立以来、産官学連携、異業種・異分野連携による研究開発のプラットフォームとして、多くの研究機関・企業などが集まり、協調・連携しながら研究開発を進める体制を整備されてこられたことに深く敬意を表します。

また、研究開発人材育成プログラムや若手技術者交流会を通じ、建築住宅技術の研究開発に係る人材育成にも取り組んでいただいておりますことに感謝を申し上げます。

さて、今年の1月1日には、能登半島を震源とする最大震



## (山下英和住宅生産課長 ご挨拶要旨 (続き))

度7の非常に大きな地震があり、広い範囲にわたって甚大な被害が生じています。改めて、被災されましたすべての方々に心よりお見舞いを申し上げます。

能登半島では多くの建物や生活インフラが大きな被害を受けましたが、関係業界の皆様方におかれましては、それぞれのお立場からインフラの復旧や応急仮設住宅の建設など、被災地の早期の復旧・復興に向けてご尽力をいただいたことと存じます。改めて深く感謝を申し上げます。今後、震災対応は本格的な復旧復興へとフェーズが変わっていきますので、引き続き、ご尽力いただけますよう、よろしく願い申し上げます。

今般の地震では、多くの住宅・建築物が地震や津波によって大きな被害を受けましたが、改めて、住宅・建築物の安全性の確保ということが求められております。地震の発生以来、建築物の構造被害に関する調査やその原因分析を進めておりますが、この分析を踏まえた対策の方向性を検討して参りますので、引き続き、ご支援ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

また、地球温暖化対策としては、2050年カーボンニュートラルという大きな目標に向け、住宅・建築物の分野では、2050年にはストック平均でZEH・ZEB水準の省エネ性能の確保を目指します。それに先立って、2030年には新築についてZEH・ZEB水準の確保という目標の達成を目指して、様々な取り組みを進めております。

令和4年の建築物省エネ法の改正を受けまして、いよいよ来年4月からは新築の住宅・建築物について、省エネ基準への適合義務化が始まります。来年4月まで、もう残すところ10カ月を切っております。この省エネ基準への適合義務化が、混乱をきたすことなく円滑に施行されますよう、引き続き周知などの準備に万全を期してまいります。

また、エネルギー価格の高騰が続く中、住宅における省エネ投資を下支えするため、近年は秋の経済対策、その裏付けとなる補正予算において、子育て世帯などによるZEH住宅の取得や住宅の省エネリフォームなどに対して支援をいたしました。特に昨年から、経済産業省と環境省によりまして、高断熱の窓、高効率の給湯器に対する手厚い支援も用意されており、三省連携のもとでワンストップの受付窓口を設置して、これまでにない事業規模で住宅の省エネ化を支援しております。

こうした取り組みの結果、ZEH住宅の戸数、それからZEH住宅を供給される事業者の数も大幅に増加しており、省エネリフォームによって取り付けられる高断熱の窓に対する需要も大きく伸びているところです。

また、昨年度の補正予算におきましても、こうした取り組みを支援することとし、今度は子育てエコホーム支援事業と

いう名称で、前の年を上回る規模の予算を確保しております。引き続き、経済産業省や環境省と連携いたしまして、住宅・建築物の省エネ化にしっかりと取り組んでまいります。

そして、これまでのカーボンニュートラルに向けた取り組みは、建築物の使用段階でのエネルギー消費量を削減してCO<sub>2</sub>の排出量の削減を進めるというものでしたが、建築物を構成する部材の製造、それから施工、使用、解体廃棄に至るまでの建築物のライフサイクル全体において発生する温室効果ガスの排出削減を目指すということが、国際的にも大きな潮流となっており、昨年のG7の関係大臣会合においても取り上げられているところです。

先月には建築物のライフサイクルカーボン算定ツールの試行版が公開されましたが、引き続き、ライフサイクルカーボンの削減に取り組んでまいります。こうした取り組みの推進に当たりましては、建築・住宅技術の研究開発の進展に期待するところが大きく、引き続き、コンソーシアムの皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

また、カーボンニュートラルの実現ということでは、大気中の二酸化炭素を吸収・固定し、長期的に貯蔵する木材の利用を進めることも大切ですが、とりわけ木材需要の4割を占めます建築物分野での一層の木材利用を進めることが期待されております。令和4年には、建築物省エネ法と合わせて、建築基準法も改正され、大規模建築物の木造化の促進のための防火規制の合理化などが盛り込まれておりますが、本年4月から関係法令を施行したところです。

大規模建築物の木造化の推進に当たりまして、規制の合理化に加え、中大規模の木造建築物の普及につながるプロジェクトや、先導的な設計・施工技術が導入されるプロジェクトなど、中大規模の木造建築物の整備に対する支援も継続してまいります。中高層の木造建築物を広く普及させていくためには、まだ様々な研究開発を進めていく必要がございますので、引き続き、ご支援・ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

また、このような様々な課題に対応いたしますとともに、住宅・建築物の質を高め、より一層魅力的なものとしていくためには、建築・住宅技術に関する研究開発を推進し、その成果を生かして住宅・建築物の整備を進めていくことが大変重要となります。

建築研究開発コンソーシアムにおかれましては、今後とも建築・住宅技術に関する研究開発や人材育成を通じて、わが国の建築・住宅業界を先導していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びになりますが、建築研究開発コンソーシアムの益々のご発展と、本日ご臨席の皆様方のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、ご挨拶といたします。

## 懇親会・挨拶要旨

### 挨拶要旨

#### 建築研究開発コンソーシアム 澤地 孝男 会長

本日の通常理事会・通常総会が皆様のご協力のもと、つつがなく終わりましたことをご報告させていただきます。

総会の事業計画のご説明にもございました通り、当会は、本年度より新たな事業を開始いたします。これは、建築・住宅に関連する新技術等の社会実装の促進を目的とし、関連する会員により社会実装に資する試設計等を行うもので、当コンソーシアムが連携・協力協定を締結している日本建築住宅センター様の支援事業として実施するものです。日本建築住



宅センター様には、改めて御礼申し上げます。

当コンソーシアムは、産・官・学の連携や異業種、異分野連携による研究開発の基盤となる場づくりを目指してまいり、多様な活動成果が積み上がってまいりました。これもひとえに、会員の皆様、及び関係者各位のご理解とご協力のたまものであり、ここに深く感謝申し上げます。今後とも、多様化する建築・住宅のニーズに併せて「研究開発のプラットフォームづくり」として活動してまいりますので、引き続き皆様方のご支援、ご協力をお願いいたします。

本日は、ささやかなる懇親の場を設けさせていただきました。コンソーシアムの今後の発展と皆様のご活躍を祈念いたしましてご挨拶とさせていただきます。

## ご挨拶要旨

国土交通省 住宅局  
石坂 聡 局長



貴コンソーシアムは、様々な業種の企業や団体、関連する研究機関、そして学識者の方々が集まり、共同で研究や人材育成を行っていただいております。そのような活動により、我が国の建築住宅分野での研究開発、技術開発が大幅に進んでいるのではないかと考えております。こういった活動が、我が国の建築住宅分野の活力になっていきますので、引き続き、関係者が協力し一致団結して、研究開発を進めていただきたいと思っております。

昨今の我が国の状況を考えますと、日本はあまり元気がないのではないかと心配しておりますが、ぜひ、建築住宅分野から日本を元気にしていただければと思っておりますので、皆様の引き続きのご協力をお願いしたい次第です。

本日はおめでとうございます。

## ご挨拶要旨

株式会社日本建築住宅センター  
井上 俊之 会長



昨年20周年記念誌にも書いたのですが、当社はコンソの会員ではなく、コンソを全面的にバックアップして一体でやっていくんだ、ということで設立時からお手伝いをする立場でした。建築研究所の元理事長の山内さんが理事長を辞められた後、当社の副社長をされ、コンソの方も関わっておられて、一体的にやっていました。

一昨年、この会社に来てみたら、当社とコンソは全く別の組織として動いていて、もっと支援しているはずじゃなかったのかな、と思いました。当社は一般財団法人日本建築センターの出捐母体であるとともに、その前段階として住宅建築産業界から出資して頂いて作った会社であります。公益事業として住まいナビセンターという財団を作り、そして、晴海をよくする会で晴海のまちづくりに貢献しております。建築分野への貢献としては、多分、コンソを通じて研究開発のお手伝いをするのが一番大きいはずなのに、何もやってないというのはおかしいと思いました。

そういうことで、今回軌道修正しまして、先ほどご紹介のあった社会実装事業を新しくやり始めようと思っております。あと、ある時にガス関係は何もやってないね、とガス会社から言われ、ガスに関する取り組みも考えたらどうか、関連して会員を増やすお手伝いもしようかとも思っています。

ということで、なんかお祝いというより決意表明になりましたけども、これからコンソと一体でいろいろなことをやっていきたいと思っておりますので、よろしくご協力をお願い申し上げます。最初に言うべきことを最後になりましたけども、ご盛會、誠にありがとうございました。そして皆様方のご健勝とご多幸を祈念してご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



## 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
村上 周三 特別顧問



本コンソーシアムでは、異業種連携ということが活動方針の柱の一つとなっております。カーボンニュートラルと異業種連携ということで最近の話題を紹介させていただきます。総会で山下住宅生産課長からもお話がありましたが、LCCO<sub>2</sub>（ライフサークルカーボン）、あるいはWLC（ホールライフカーボン）という技術開発課題が世界中で話題となっております。WLCの管理を行うためには、建設段階、運用段階、廃棄段階を含め建築に関わるあらゆるカーボンを明らかにする必要があります。いわゆる、ゆりかごから墓場まで、サプライチェーンの上流から下流まで、あらゆる建材・コンクリート・鉄・設備などを対象にしてカーボンの量を算定する大変大きな事業でございます。このようなWLCの活動が世界中で進んでおり、日本もこの動きにキャッチアップしなくてはならない状況にあります。

このWLCの運動を推進していくためには、あらゆる業種の方に参加していただく必要があります。それは本コンソが得意とする異業種連携そのものであります。

只今ご紹介しましたWLCだけでなく、建築に関わる技術開発に関して、近年多くの業界が参加しなければ実現できない開発課題が増えております。コンソの一層の活躍が期待される次第であります。

## 挨拶要旨

建築研究開発コンソーシアム  
笹川 淳 副会長



本日は総会から懇親会までの間に、大変多くの皆様とお話する機会を頂戴し、社会が抱えるさまざまな課題に対し、この「建築研究開発コンソーシアム」が如何に重要な役割を担っているかを認識することができました。浅学非才でまだまだ若輩者ではございますが、このコンソーシアムの活動に少しでも貢献できればと思っておりますので何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、私共建設業を取り巻く環境を見てみますと、昨今の活発な設備投資に支えられ、建設需要も当分は底堅いところではあります。ご案内のとおり、少子高齢化に伴う人手不足は建設業において最も顕著であり、建設業に携わる労働者が減少していく中、追い打ちをかけるように、今年4月から改正労基法の残業規制が建設業にも適用され、建設業界全体として生産キャパシティの確保が、喫緊の最大の課題であると認識しております。

これに対して、ICT（インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー）、DX（デジタルトランスフォーメーション）やロボット化を推進して生産性向上をはかると共に、職場環境を改善するなどして、働く方のウェルビーイングの充実も同時に進めて行かねばなりません。さらには、社会問題であるCN（カーボンニュートラル）や自然災害への対応においても、我々建設業が貢献せねばならないエリアが益々広がっております。

こうした様々な課題を解決していくためには、やはり各社個別での対応では限界があり、まさにこのコンソーシアムの強みである「産学官の異分野・異業種連携」により、技術開発分野にイノベーションやブレイクスルーをもたらす強固なプラットフォームが必要であります。これからも国交省様をはじめ、ご関係の皆様のご指導のもと、会員各社にもご協力いただきながら、このコンソーシアムをより有益なものとしていきたいと存じますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

## 委員会の活動内容

当コンソーシアムは、理事会の下に運営委員会を置くほか、本会の目的達成に必要な事業を行うために、理事会の議決を経て、以下の委員会を設けています。

### 運営委員会

役割：建築研究開発コンソーシアム規定に基づき、理事会から委譲を受けた事項について議決する他、コンソーシアムの運営上必要な事項を審議することを役割としています。

委員長	福山 洋 (国研)建築研究所	委員	加藤 正宜 (一財)ベターリピング
副委員長	大西 裕之 大阪ガス(株)	委員	与謝 国平 (株)大林組
委員	山田 哲弥 清水建設(株)	委員	梅田 博之 ミサワホーム(株)
委員	湯浅 憲 高砂熟学工業(株)	委員	鈴木 曜 パナソニックホームズ(株)
委員	唐澤 智之 鉄建建設(株)	委員	柳橋 邦生 (株)竹中工務店
委員	村江 行忠 戸田建設(株)	委員	橋橋 康英 (国研)建築研究所
委員	落合 まみ (一財)日本建築センター		
委員	西田 裕一 日本製鉄(株)		

### 交流推進委員会

役割：交流推進委員会は、会員に有益な情報を、ホームページ、ニューズレター等の媒体や、講演会、見学会等の手段を用いて提供する事業及び会員間での情報共有や会員相互の情報交換の場を設けることを通じて、会員の交流を推進する事業等を実施することにより、会員が受けるメリットを向上させるための業務を展開し、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

委員長	与謝 国平 (株)大林組	委員	吉田 元紀 積水ハウス(株)
副委員長	梅田 博之 ミサワホーム(株)	委員	成原 弘之 大成建設(株)
委員	上山 耕平 (一財)建材試験センター	委員	井上 雅之 (株)長谷工コーポレーション
委員	洲上 勝志 五洋建設(株)	委員	田村 俊樹 パナソニックハウジングソリューションズ(株)
委員	内海 一郎 積水化学工業(株)	委員	木村 隆 三菱ケミカルインフラテック(株)

### インキュベーション委員会

役割：インキュベーション委員会は、これからの研究開発の担い手となる若い人材の育成を会員が協働して支援するスキームや、異業種の研究者、技術者等が主体的に参画し自由に議論することを通じて新たなアイデアや技術開発の種を生み育てる場を提供する事業等を実施することにより、コンソーシアムの活性化に資することを役割としています。

委員長	鈴木 曜 パナソニックホームズ(株)	委員	田中 康夫 住友林業(株)
副委員長	柳橋 邦生 (株)竹中工務店	委員	林 新太郎 (独)都市再生機構
委員	古谷 祐希 (株)安藤・間	委員	増田 圭司 (株)フジタ
委員	山中 徹 鹿島建設(株)	委員	赤尾 伸一 三井住友建設(株)
委員	鈴木 正美 新菱冷熱工業(株)		

### 研究開発推進等委員会

役割：研究開発推進等委員会は、自主性や競争的な研究開発環境を尊重しつつ日頃交流する機会の少ない異業種の企業が共同して研究開発を推進する場や、会員の人的・経済的資源を有効に活用できるような研究開発のスキームを用意するとともにコンソーシアムの諸活動の成果や、会員が有する技術等を会員のみならず広く社会に還元するため、国への働きかけや関係機関からの業務受託を推進することにより、もって会の活性化に資することを役割としています。

委員長	橋橋 康英 (国研)建築研究所	委員	平田 茂良 大和ハウス工業(株)
委員	黒木 美博 旭化成ホームズ(株)	委員	山田 秀之 東京ガス(株)
委員	上 寛樹 (株)奥村組	委員	小南 和也 (一財)日本建築総合試験所
委員	住 学 (株)鴻池組	委員	山口 雅人 吉野石膏(株)
委員	吉岡 清 佐藤工業(株)		

詳細は、ホームページをご覧ください。 <https://www.conso.jp/>

## 活動中の研究会 (2024年7月現在)

No	研究会テーマ	提案者
1	文理共創による研究開発 研究会 ～研究課題発想と成果展開のための文系技術の利用～	藤井 俊二
2	巨大地震等対応防災拠点建築物集積エリア計画研究会	竹内 徹
3	中規模木造用高耐震・制震化システムの開発	古田 智基
4	高さ5m超を含む軽量鉄骨下地乾式間仕切り壁の 地震時損傷制御に関する研究	清家 剛
5	工事中の溶接・溶断火花が発泡プラスチック系断熱材に 飛散して発生する火災の対策に関する研究会	吉岡 英樹
6	次世代鉄筋コンクリート造 (Next RC) の開発に向けた研究会 ～フェーズⅡ CO <sub>2</sub> 削減×高耐久化とRC造の要求性能の検討	建築研究所
7	建築基礎・地盤分野の持続的な研究開発を目指す 若手勉強会フェーズⅡ	
8	BIMを活用した火災安全検証の 高度化・標準化に向けた研究会	
9	中高層木造建築物の社会実装に資する技術研究会	
10	中小規模建築にも適用可能な 遠隔臨場・自動計測等の技術仕様の検討	

No	研究会テーマ	提案者
11	住宅・建築物のカーボンニュートラルの推進	建築研究所
12	環境配慮画型建築に向けたプレキャストコンクリート部材 のリユースのための研究会	安藤・間
13	ミリ波・テラヘルツ波を用いた 非破壊検査技術に関する研究会	熊谷 組
14	透明材料を用いた制震壁の開発	竹中工務店
15	カーボンニュートラルに向けた非住宅系建物気密化の ための制度実現化及び普及への提案	大成建設
16	小規模建築物の地盤における 不同沈下のリスク評価技術の研究	積水化学工業
17	木質建材を外装仕上材に使用する際の 耐久設計ガイドラインの構築	大和ハウス工業
18	鋼構造建築物の損傷評価と性能設計	日本設計 日本製鉄
19	地震後の継続使用性を確保するための 設備機器システムを対象とした迅速な損傷把握技術	新菱冷熱工業

## 新会員・新事務局員の紹介

### 新会員 (※入会順)

#### 正会員

- 株式会社パロマ  
代表者：小林 弘明  
所在地：愛知県名古屋瑞穂区  
桃園町6-23
- 株式会社三菱地所設計  
代表者：谷澤 淳一  
所在地：東京都千代田区  
丸の内2-5-1

#### 準会員

- KMTX株式会社  
代表者：松 俊彦  
所在地：岡山県笠岡市港町  
1番地20

- 株式会社入江三宅設計事務所  
代表者：兼藤 真一  
所在地：東京都港区赤坂1-12-32
- 三井不動産エンジニアリング株式会社  
代表者：雨宮 克也  
所在地：東京都中央区日本橋室町  
3-2-1

#### 学術会員

- 井戸田秀樹氏 名古屋工業大学
- 松沢 晃一氏 明治大学

### 新任事務局員

#### 泉田 英紀

4月より株式会社大林組から事務局に転向して参りました。これまでの社内での様々な経験を生かしまして、交流推進委員会を盛り上げていきたいと思っております。転向期間中は、異業種の方々との交流を通じまして、会員の皆様のお役に立てるよう努めてまいりますので、宜しくお願い致します。

#### 恩田 秀美

4月よりパナソニックホームズ株式会社から事務局に転向して参りました。インキュベーション委員会を担当いたします。約2年という短い期間ではありますが、会員の皆様へ貢献できるよう尽力する所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

#### 松林 道雄

4月より国立研究開発法人建築研究所との兼務で事務局員を務めております。研究者としては既存建築物におけるBIMデータの作成とデータ活用について取り組んでおります。研究開発推進等委員会の活動を中心にみなさまの支援をさせていただきます。

## CBRD News Letter 53号

発行日：2024年7月31日  
編集：建築研究開発コンソーシアム 交流推進委員会  
発行：建築研究開発コンソーシアム 事務局

## CBRD 建築研究開発コンソーシアム

〒104-6204 東京都中央区晴海1-8-12 トリトンスクエア Z棟 4階  
TEL：03-6219-7127 FAX：03-5560-8022  
E-mail：conso@conso.jp(代表) Home Page： <https://www.conso.jp/>